

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除情報 第 1 号を下記のとおり発表します。
麦類赤かび病は、出穂期から乳熟期にかけての気象状況によっては、発生量が多くなる傾向があるので適期防除するようご指導願います。

平成 27 年度 病害虫発生予察防除情報 第 1 号

麦類 赤かび病の防除対策について

- | | |
|--------|---------------|
| 1 対象作物 | 麦類 (オオムギ、コムギ) |
| 2 病害虫名 | 赤かび病 |
| 3 発生地域 | 県下全地域 |

4 麦類生育状況、気象予報について

- (1) 4 月 16 日付麦類気象感応調査 (加西市) によると大麦「シュンライ」の出穂始めは、4 月 8 日出穂期は 4 月 16 日となっており、平年 (4 月 12 日) より 4 日遅く、小麦「シロガネコムギ」は、4 月 16 日に出穂始めとなっている。
- (2) 神戸海洋気象台(4 月 16 日付)発表の向こう 1 か月予報(4 月 16 日から 5 月 17 日までの見通し)によると、天候は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れ日が多い見込みとなっている。気温については平年で推移し、降雨量は平年並からやや多いと予測されている。

5 発生生態・予想について

本病は、開花 7～10 日頃から発生し、穂の一部または全部を褐変枯死させる。甚大な発生となった被害種子は白っぽい屑ムギとなり、収量や品質が低下するだけでなく、かび毒による汚染を起こすおそれがある。

本病の発生 (第 1 次感染) は、出穂期から乳熟期にかけての降雨量 (日数) が最大の誘因で、さらに気温の上昇 (20℃～27℃) により感染しやすい好適な条件となることが推測される。本病が、最も感染しやすい時期は、開花期 (約 50%が開花) から開花盛期 (約 80%が開花) である。

6 防除対策について

- (1) 降雨と気温の条件により感染、発病しやすくなることから開花期始めから開花期を中心に防除を実施すること。
- (2) 薬剤による防除適期は、農研機構ホームページ[※]にアクセスし、品種、アメダス地点名を選択すると播種日を基に出穂期、開花期が予測できる。予測された開花期より約 5 日前が防除適期始めとなり、この日から 7～10 日間は防除適期となる。
- ※ (http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2011/180a0_01_33.html)
- (3) 乳熟期以降 (5 月中～下旬) も多雨で経過すると二次感染が助長されることから圃場をよく観察し、追加防除を実施すること。
- (4) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222